

全国学力・学習状況調査の結果から見えるもの

▶問い合わせ先 学校教育課 (☎ 664 - 1627)

全国学力・学習状況調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証することでその改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に実施されています。

なお、この調査によって測定できるのは学力の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

調査の概要

- ▶対象学年・人数 小学校6年生 185人、中学校3年生 182人
- ▶調査日 平成31年4月18日(木)
- ▶調査内容
 - ①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
 - ②児童・生徒質問紙調査
学習意欲・方法・環境や生活の諸側面等に関する質問紙調査
 - ③学校質問紙調査
指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備状況等に関する質問紙調査

表「教科に関する調査の結果と全国平均値との比較」

	教科	全国平均値との比較	平均値からの範囲
小学校6年生	国語	下回っている	-10ポイントの範囲内
	算数	下回っている	-10ポイントの範囲内
中学校3年生	国語	同程度	-5ポイントの範囲内
	数学	同程度	+5ポイントの範囲内
	英語	同程度	+5ポイントの範囲内

全国平均値と比較して、±5ポイント以内であれば「同程度」、それ以上の差は「下回っている」と表現しています。

また、網掛けの部分は昨年度との比較により変化があった部分を示しています。

はじめに

今回の調査結果を受けて、学校では、子どもたちの生活実態や学習状況等を適切に把握するとともに、これまでの取り組みの成果と課題を検証しました。

市教育委員会では、検討会議を開催し、学校での検証内容を踏まえ、市全体として指導の工夫改善を図るための具体的な方策について協議しました。

その概要について、特徴的なものをまとめました。

教科に関する調査から

これまで、基本問題と応用問題に分かれていた国語、算数・数学の問題が一つになりました。また、初めて中学校において英語の調査が行われ、話すことの調査も試行されました。

本市の状況について、小学校6年生は、国語、算数ともに全国平均を下回っていました。中学校3年生は、おおむね全国平均と同程度でした。

◆小学校 国語について

『調査のタイショウ(対象)』を漢字で解答する問題に課題が見られるなど、漢字や熟語の意味の理

解が不十分でした。熟語の意味を調べる機会を設けたり、日頃から文章の中で漢字を使うことを心がけたりする手立てが必要です。

また、長文を読み取る力が弱いという課題も見られました。読書に慣れ親しみ、長文に対して抵抗感をなくし、内容を読み取る力をつける必要があります。

◆中学校 国語について

『話し合いの場面において、ある人物の発言がどのような役割を果たしているか』を解答する問題の正答率が高かったです。授業で少人数での話し合い活動を積極的に取り入れていく成果といえます。

一方、複数の条件に従って、自分の考えを書く問題に課題が見られました。根拠を示し、自分の考えを書くことを意識した授業づくりが必要です。

◆小学校 算数について

『いくつかの四角形から台形を選ぶ』『グラフから変化の様子を読み取る』問題の正答率が高かったです。授業で基礎・基本を丁寧に学習している成果といえます。

一方、『わり算の計算の仕方について「わられる数」「わる数」「商」の言葉を使って説明する』問題に課題が見られました。自分の考え



を書いたり、算数用語を使って立式の意味を説明したりする授業づくりが必要です。

◆中学校 数学について

連立方程式等の計算問題の正答率が高かったです。生徒の学習への意識の高さ、少人数指導によるきめ細かな指導の成果と考えられます。

一方、資料から傾向を的確にとらえて考察し、その根拠を説明する問題に課題が見られました。数学的な用語を用いて説明し、結論に導く授業づくりが必要です。

◆中学校 英語について

全国平均を上回っていました。『ある人物について「オーストラリア出身」「ローマに住んでいる」「ペットを飼っていない」という情報を用いて英文で説明する』問題の正答率が高かったです。授業の中でグループ活動を取り入れて、継続的に自己表現を行ってきたことや複数指導体制によるきめ細かな指導により、英語を話したり書いたりすることへの苦手意識がなくなっている成果だといえます。

なお、話すことについては、試行として調査されたため、全国平均は出ていません。

質問紙調査から

昨年の結果と同様に「地域の行事に参加していますか(問1)」「朝食を毎日食べている」「学校の決まりを守っている」「人が困っているとき助けている」などが全国平均を上回っていました。基本的な生活習慣が身に付いており、規範意識等道徳性が高い実態が見られます。家庭の教育力の高さ、学校における生徒指導の成果が表れています。

◆将来の夢や目標について

問2では「夢や目標を持っていない」と回答した割合が全国平均を上回っていました。小中一貫教育を実践し、9年間を見通した「ふるさと教育」や「キャリア教育」を推進し、地域を見つめ、地域の人から学び、豊かな感性と郷土愛を育んでいます。この取り組みを通して、進路・職業・生き方について考える機会となっています。さらに夢や目標の実現に向けて努力する意欲と態度を育成することが望まれます。

◆自分のよいところは

問3では「自分にはよいところがあります」と回答する割合が全国的に低い傾向にありました。自

己肯定感を高めていく取り組みを推進することが求められます。

「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか(問4)」との問いでは、全国平均を上回っていました。授業を含めた教育活動全体を通じて、積極的にチャレンジする姿に励まし認める言葉かけがさらに大切になってきます。家庭、地域においても「あなたは大切な存在です」という温かい言葉を子どもたちに伝えていただきます。

今後の方策

今回の調査結果を受けて学校では、次のように課題に対する取り組みを進めていきます。

- ・小中一貫教育を推進し、9年間を見通した効果的な指導を行います。
- ・算数・数学や英語等の少人数指導の充実を図ります。
- ・「そうあんくんの日」の取り組みでは、読書等自主的に学ぶ意欲と態度の育成を図ります。
- ・各校の効果的な取り組みを情報共有し、さらなる充実につなげていきます。

